

山村の古民家にて親子の方々が ありのままを ありのままに楽しんでいます アニメ「おおかみこどもの雨と雪」の世界にて

13.07.08 中新川の愉快的な仲間

アニメ「おおかみこどもに雨と雪」が空前のヒットとなりました。あらすじは、母と子ども 2 人が住みにくくなった都会を離れ、田舎の山村にきて農業をいとなみながら、自然の中で子どもが母の愛のもとたくましくすくすくと育っていく、というものです。

親子が主人公とあって、世代を超えて若者はもちろんのこと多くの親子の方々が鑑賞し、大変感動されておられました。

皆さんは、まず舞台環境を写実的に大変きめ細かく描きこまれたことによる人間描写にびっくりし、続いて大自然のもとでの愛と育ちという人間としてのごく自然なことに感動したのです。

このためか、どうしてもアニメ舞台の世界を見たいとして、場所を公表していないにもかかわらず、モデル地には連日、家族連れや若者が土日は 20 人を超えるくらい訪れています。モデル地は低い山が連なる静かな雰囲気山村でそこに古民家があります。来訪者はふもとから 40 分もかけて道々自然を満喫しながらやってこられるのです。

訪れた方々に「何に感動しましたか」と聞ききますと、女性の方々は「母と子のきずなや子育てに感動」と言われ、男性の方々は「なかなかうまく言えないけれども感動した」とのことでした。また、古民家についてはどうですかと聞いたところ、「匂い、澄んだ空気、落ち着く」といった感覚的なことは当然の事、「古民家とそこに住む方々に魅せられ感動した」と言われる方もおられました。まさに、感動の核心は人間ドラマだったのでしょう。だから、彼らはアニメの舞台に(複数回)来て、舞台を「見る」のではなく、舞台上で演じられるドラマを「堪能する」のです。

一方、子どもはと申しますと、あたかもアニメの世界に入り込んだかのように、庭で遊んだり、絵を描いたり、しまいに家の中を走り回り、ごく自然な光景でした。また、子どもが親に「おおかみこども」の絵本を読んでもらっているうちに、絵本に描かれた親子の愛情に感極まって親も子も泣きだし、まわりにいた方々ももらい泣きするということがありました。

皆さんの古民家でのくつろぎをみていますと、古民家という非日常空間の中で、来訪者全員があたかも大家族を構成しているかのように、日常性に感動し楽しんでいます。

そこには何の仕掛けも何の施設もなく、あるのはごく普通の自然とごく普通の人間であり、人間と自然が一緒になって風景風土を作っているのです。そうした風景の中で、子どもがおり、親がおり、様々な来訪者がおり、和やかなコミュニケーションがなすドラマは、ありのままをありのままとする本当にいい光景ですね。

建築の立場からは、文化性の高い古民家を保存再生するためにじっくりと「見る」こと

を主体にしがちで、「場の堪能」はなかなかできないものです。しかしここでは、子どもたちが一般の方々とともに古民家を息づかせてくれているといっても過言ではないでしょう。

この古民家は私の住んでいる町にあり、アニメ監督細田守氏は私の住む村の出身です。ここで、皆さんとともにアニメの世界を堪能したいですね。



左上 古民家のアプローチ

右上 古民家全景

左下 座敷で絵を描いている子ども

右下 ストープの周りであつろぐ家族